

14. 京都市木野愛宕神社の祭礼準備

鈴木詩織

1. はじめに

京都府京都市左京区岩倉木野町は、元亀3年（1572）に土器師一族が粘土を探し求め、嵯峨から移り住んで来た地域である。木野愛宕神社は、この移住した一族が1600年頃に嵯峨野々宮神社から勧請したものと伝えられている。毎年10月23日に祭礼が行われており、様々なお供え物が用意され、下鴨神社の神官らによって神事が執り行われる¹⁾。今回、中村治（京都府立大学特任教授）氏のご紹介により、祭礼の準備作業に参加させていただくことになった。

2. 参加日程・参加者

日程 令和3年（2021）9月26日、10月10日、10月22日、10月23日（祭礼当日）
参加者 滝澤和湖（博士前期課程1回生）、長谷川巴南（4回生）、鈴木詩織、吉富絵音（以上3回生）、添田春香、武田知奈、渡邊幸奈（以上2回生）、橋本唯、依田萌奈（以上1回生）

3. 木野愛宕神社の祭礼準備

・9月26日（日）

この日は町内の方々と共に、藁そぐりの作業を行なった。これは、神社の鳥居に飾る大しめ縄を作るための準備作業である。藁1本1本からはかま（根本に付いた葉）を取り除き、茎の芯の部分だけを残す。

木野愛宕神社で使用する藁は、地元で収穫されたモチわらを利用しているという。現代では藁やしめ縄などを他地域の民間企業や組合などから取り寄せることもある中で、地元で生産したものを使用することができている現状は貴重なものであるだろう。

・10月10日（日）

全体としては、先日に引き続き藁そぐりの作業を行なった。はかまを取り除いた藁は、木槌を使って叩き柔らかくし、その後数人掛かりで藁を編み込んで大しめ縄を作っていく。こうして完成したしめ縄は古いしめ縄と交換され、鳥居に飾られた。また、御幣・紙垂の作成方法も教えていただいた。



図1 藁そぐりの様子

・10月22日（金）

この日は祭礼前日という事もあり、様々な神饌作

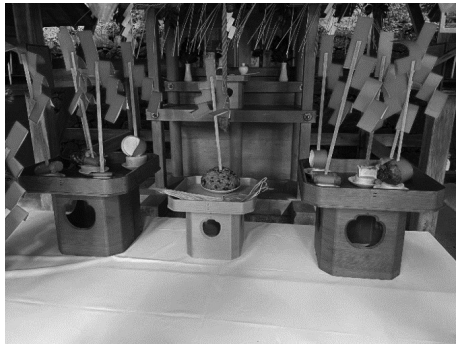


図2 神饌の様子



図3 祭礼の様子

りに参加させていただいた。木野愛宕神社の祭礼では、神饌としてゆり膳・一の膳・二の膳・花膳という4種のお膳をお供えする(図2)。神饌では、かわらけを皿として使い、豆腐、ダイコン、するめなどのような食品がお供えされており、地域の特性が特に反映された部分であった。

4. 祭礼

例年では、夜に祭礼神事、茂山社中の狂言師による奉納舞、烏帽子着(元服式)などが行なわれているが、今年はコロナウィルス感染防止のため午前中に神事のみが行われた。

神事は午前10時から始まり、下鴨神社の神官と氏子惣代の方々によって、神前で様々な儀式が行なわれた(図3)。本来の夜間に提灯を灯して行なわれる神事も荘厳ではあるだろうが、今回昼間の神事ということで神事の様子をよく見ることができ、良い機会になった。

5. おわりに

木野愛宕神社では、氏子の方々が協力し、地域と共にこの祭礼を継承していこうと活動されている。祭礼準備についても、写真やメモなどでの記録やインターネット上での発信などを詳細にされていた²⁾。このような伝統文化を将来へ継承していくためにも、今後さらに記録・情報発信が求められるだろう。

最後に、快く参加を受け入れて下さった木野愛宕神社氏子の皆さん、木野地域の皆さん。この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

註

1) 木野愛宕神社 - 木野愛宕神社 (https://kinocho.com/atagojinjya_shinsen/?p=67 最終閲覧 2022/01/18)

2) 木野愛宕神社祭礼の神饌づくりからのお知らせ - 木野愛宕神社 (https://kinocho.com/atagojinjya_shinsen/?p=107 最終閲覧 2022/01/18)